

群 教 七	G08 - 03
	令 2.275 集
	商業

# 会計分野における 身に付けた知識・技術を活用し、根拠を明らかにした 自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成 —ジグソー法による伝え合うグループ活動と発表の場面を通して—

特別研修員 松井 あゆみ

## I 研究テーマ設定の理由

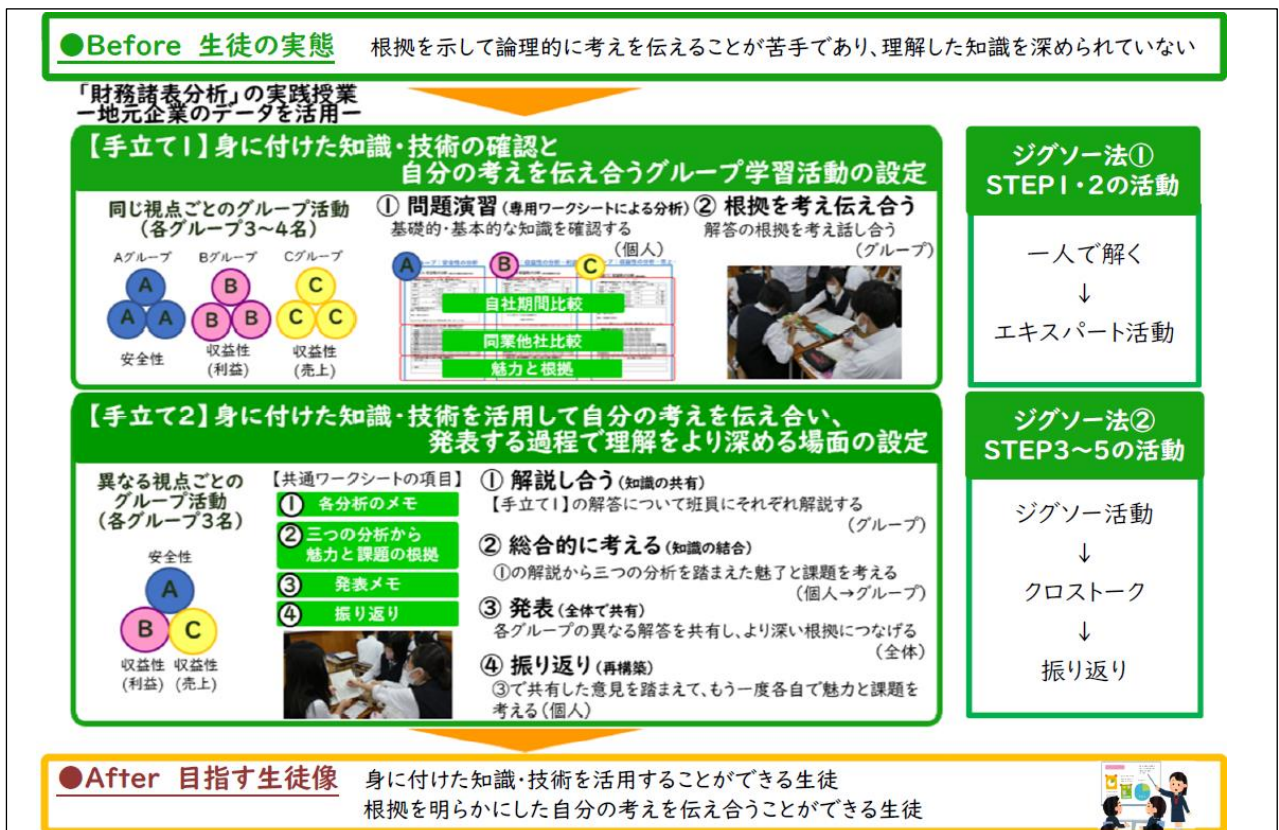
令和2年度県立学校教育指導の重点（商業の目標）には、「ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するために、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、職業人として必要な知識や技術を習得させるとともに、職業人に求められる倫理観や豊かな人間性を育み、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。」とある。

研究協力校の生徒は、職業人として必要な知識や技術に対して、目標をもち、努力して取り組んでいる。しかし、根拠を示して論理的に考えを伝えることが苦手であり、理解した知識を深められていない。また、教師による講義形式で、資格取得を中心とした授業が少なくない。そのため、基礎的・基本的な知識や技術の習得はあるが、他者との対話によって理解した知識や技術をさらに深める機会が少ない。

そこで、授業で学んだ基礎的・基本的な知識を通して、理解した内容を互いに伝え合う協働的な学びにより、一層の知識や技術の定着を目指す。また、実務を想定した学習課題を通して、身に付けた知識・技術を活用し、根拠を明らかにした自分の考えを伝え合うことができる生徒を育成したいと考え本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

授業で学んだ基礎的・基本的な知識・技術を活用し、実務を想定した発展的な学習課題について、グループ活動を通して、根拠を明らかにした自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成をするために、次の二つを手立てとして考えた。

### 手立て1：身に付けた知識・技術の確認と、自分の考えを伝え合うグループ学習活動の設定（ジグソー法①：同じ視点ごとのグループ活動）

- ・基礎的・基本的な知識を確認する問題演習（個人）
- ・グループ内で解答を確認した後、分析結果と解答の根拠を考え解説について話し合う（グループ）

### 手立て2：身に付けた知識・技術を活用して自分の考えを伝え合い、発表する過程で理解をより深める場面の設定（ジグソー法②：異なる視点ごとのグループ活動）

- ・グループ内で三つの分析結果についてと解答の根拠を解説し合う（グループ）
- ・三つの分析結果の解説を踏まえて総合的に考えた分析と解答の根拠を考える（グループ）
- ・グループでまとめた分析と解答の根拠を発表し合う（全体）
- ・最後に、もう一度各自で解答と解答の根拠について考える過程でより理解を深める（個人）

生徒同士が対話を通して、理解した知識や技術を更に深め、主体的、協働的に課題に取り組んでいくことで、学ぶべき内容が真の知識として生徒に定着することを目指す知識構成型ジグソー法（東京大学 CoREF が提唱）が、会計分野でも有効だと考え取り入れた（図1）。

- 手立て1では、テーマを複数の視点に分け、同じ視点ごとのグループで活動を行う。ここでは、グループごとに異なる専門資料を用意し分析できるように作成した専用ワークシートを活用する。
- 手立て2では、手立て1のグループのそれぞれの生徒がいる異なる視点ごとのグループで活動を行う。ここでは、自分の考え、グループ・クラス全体の考えが記入できるように作成した共通ワークシートを活用する。

	【知識構成型ジグソー法の手順】
手立て1	<b>STEP1</b> 一人で解く <b>STEP2</b> エキスパート活動（同じ資料を読み合うグループで解く）
手立て2	<b>STEP3</b> ジグソー活動（違う資料を読んだ人が集まったグループで、説明し合う。知識を組み合わせ、問いへの答えを作る） <b>STEP4</b> クロストーク（解答と根拠についてクラスで発表） <b>STEP5</b> 振り返り（最後に、もう一度一人で考える）

（東京大学 CoREF の HP より引用）

図1 ジグソー法と手立ての対応

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 手立て1で使用した専用ワークシートにより、身に付けた知識・技術を活用して根拠を踏まえた自分の考えをまとめることができた。
- 手立て2で三つの分析を踏まえて総合的に考えるため、手立て1の活動で生徒は、それぞれの指標について算出するだけでなく、お互いの分析結果を伝え合い根拠ある分析をし、次の異なる視点ごとのグループ活動で説明できることを目指して積極的に取り組んでいた。一人一人に役割があることで、主体的に取り組んでいた。
- 手立て2で使用した共通ワークシートにより、お互いの考えを伝え合い共有することで、より深い分析とその根拠の考察につなげることができた。また、生徒同士で分析を話し合う中で出た疑問をクラス全体で考察することで、配布資料にない（株）SUBARUの経営情報についても興味・関心を持ち、企業の財務諸表分析について理解をより深めることができた。

### 2 課題

- グループ活動や発表の内容の充実、発展的な学習につなげるためには、各授業時間で基礎的・基本的な知識・技術の定着と同時に解答の根拠を考える機会を取り入れた指導が大切である。
- 単元のまとめの時間に限らず、日頃からペア学習などで根拠を明らかにした自分の考えを伝え合う活動を繰り返し取り入れた指導が必要である。

## 実践例

### 1 単元名 「財務諸表分析」 (第2学年・2学期)

#### 2 本単元について

財務諸表の作成について一連の学習が終わり、財務諸表を活用した分析方法について学習する単元である。本単元では、この単元やこれまで学んだ知識を活用して財務諸表や関係比率法の算出結果を基に企業について多角的に比較・判断し分析することができるように、個人やグループで考え、互いに教え合うことにより、本単元の学習を深めていきたい。

目標	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。	
評価 規 準	(1)財務諸表の分析の意味と役割に興味をもち、さらに収益性・安全性・成長性の分析方法に関心を高め、その学習を積極的に進めることができる。(関心・意欲・態度) (2)財務諸表分析の方法に思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断することができる。(思考・判断・表現) (3)財務諸表の関係比率の分析を習得し、その表現のしかたを習得している。(技能) (4)財務諸表の分析の意味と役割、分析の方法を理解している。また、それぞれの分析の違いを理解することができる。(知識・理解)	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・財務諸表分析の意義・方法を理解する。
追究する	第2時	・関係比率法による分析(①安全性の分析、②収益性の分析、③成長性の分析)について、その特徴を理解し、ペアで確認し、教え合う。
	第3時	・実数法による比較貸借対照表および損益計算書について、その特徴を理解し、ペアで確認し、教え合う。
まとめる	第4・5時(本時)	・この単元やこれまで学んだ知識を活用して財務諸表や関係比率法の算出結果を基に実在する企業について多角的に比較・判断し分析することができる。

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、財務諸表分析の単元で全5時間の第4・5時間に当たる。この単元で学んだ財務諸表分析の意味と役割について、理解した内容を互いに伝え合う協働的な学びを効果的に活用することで、より一層の知識や技術の定着を目指す。また、実在する企業を分析する実践的・体験的な学習を通して、各比率の違いを考え、多角的に比較・判断し、自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成を目指す。

##### 【手立て1】

「身に付けた知識・技術の確認と、自分の考えを伝え合うグループ学習活動の設定」

(ジグソー法①：同じ視点ごとのグループ活動)

- ・基礎的・基本的な知識を確認する問題演習(個人)
- ・グループ内で解答を確認した後、分析結果と解答の根拠を考え解説について話し合う(グループ)

##### 【手立て2】

「身に付けた知識・技術を活用して自分の考えを伝え合い、発表する過程で理解をより深める場面の設定」

(ジグソー法②：異なる視点ごとのグループ活動)

- ・グループ内で三つの分析結果についてと解答の根拠を解説し合う(グループ)
- ・三つの分析結果の解説を踏まえて総合的に考えた分析と解答の根拠を考える(個人→グループ)
- ・グループでまとめた分析と解答の根拠を発表し合う(全体)
- ・最後に、もう一度各自で解答と解答の根拠について考える過程でより理解を深める(個人)

## 4 授業の実際

### (1) 導入：課題の提示

導入では、これまで学んだ財務諸表分析を活用して、「(株)SUBARUの魅力」について学習することを伝えた。研究協力校がある太田市にとって、身近な企業である(株)SUBARUの財務諸表を教材にした。EDINET(金融庁が管理する金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)のデータを利用して、公表されている(株)SUBARUの財務諸表について見方を説明し、財政状態や経営成績について確認した。確認した財務諸表により本時の課題について考えさせた(個人)。

### (2) 展開①：習得した知識の確認と、自分の考えを伝え合うグループ学習活動の設定

(ジグソー法①：同じ視点ごとのグループ活動)

展開①では、これまで学んだ財務諸表分析についてグループごとに課題(Aグループは「安全性の分析」、Bグループは「収益性の分析-利益-」、Cグループは「収益性の分析-売上-」)を設定した。展開①で使用する専用ワークシート(図2)を活用して、まずは各自で、自社期間比較・同業他社比較の分析について取り組ませた(個人)。その後、同じ視点ごとのグループで各自の考えた分析結果を伝え合い、(株)SUBARUの魅力と改善点についてグループの解答を考えさせた(グループ)。

図2 専用ワークシート(展開①で使用)

分析した結果と根拠を、展開②で解説する活動があることを伝えたため、生徒は、それぞれの指標について算出するだけでなく、お互いの分析結果を伝え合い根拠ある分析をし、次の異なる視点ごとのグループ活動で説明できることを目指して積極的に取り組んでいた。教師は、グループ学習を進める中で、生徒の疑問や質問に対して生徒自身が根拠を考えられるように助言を行った。

分析した結果と根拠を、展開②で解説する活動があることを伝えたため、生徒は、それぞれの指標について算出するだけでなく、お互いの分析結果を伝え合い根拠ある分析をし、次の異なる視点ごとのグループ活動で説明できることを目指して積極的に取り組んでいた。教師は、グループ学習を進める中で、生徒の疑問や質問に対して生徒自身が根拠を考えられるように助言を行った。

### (3) 展開②：習得した知識を活用して自分の考えを伝え合い、発表する過程で理解をより深める場面の設定

(ジグソー法②：異なる視点ごとのグループ活動)

展開②では、A・B・Cグループがそれぞれいる一つの班で、三つの分析結果と根拠を一人2分発表し、教え合った。解説者は、展開①で話し合った内容をまとめた専用ワークシート(図2)を活用して、解説を伝え合うことができていた。聞き手は、友人が教えてくれた解説内容について、展開②・まとめで使用する共通ワークシート(図3)にメモを取りながら話を聞けていた。その後、報告し合った分析結果を踏まえた解答とその根拠、より魅力的な企業になる解決策を考えさせた(個人→グループ)。メモを取った共通ワークシート(図3)を活用することにより、お互いの考えを伝え合い共有して、展開①の分析結果から本時の課題を考えやすくすることができ、グループでの話し合いを活発に行うことができていた(図4)。

図3 共通ワークシート(展開②・まとめで使用)

話し合った本時の課題について、グループごとに発表を行った(全体)。聞き手は、異なる分析結果について、共通ワークシート(図3)にメモを取りながら話を聞けていた。また、グループ学習を進める中で、生徒か



図4 自分の考えを伝え合い分析を話し合う様子

ら「A 安全性の分析で、自社期間比較の結果、短期支払能力は高くなり長期支払能力は低くなっていた。原因は、流動負債が減少し、固定負債が増加したことだったが、安全性が高いと言えるのかな?」、「同じ収益性の分析でも、自社期間比較の結果、B 収益性の分析（利益）による収益性は低く、C 収益性の分析（売上高）による収益性は高くなっていた。原因は、利益が減少し、売上高が増加したからだったが、なぜ販売費及び一般管理費が増加したのだろうか?」という数値の増減理由についての疑問が出た。この疑問をクラス全体で考察したことで、本時に提供した配布資料にない（株）SUBARUの経営情報についても興味・関心をもち、企業の財務諸表分析について理解をより深めることができていた。

#### (4) まとめ：振り返り

全体で共有した結果を基に、本時の内容について、改めて企業の魅力・課題とその根拠について共通ワークシート（前頁図3）に記入し振り返りを行った（個人）。生徒が、最後にもう一度各自で振り返ることにより、財務諸表分析についてより深い根拠を考えることができた。また、生徒同士が主体的、協働的に課題に取り組んだことで、興味・関心をもち身近に感じることができた生徒がいた。以下は、生徒のワークシート（一部抜粋）である。

振り返り「これまでの活動を振り返って、改めて株式会社SUBARU—2019年度—の魅力と課題は？」

○安全性が良くなり、収益性が悪くなった。今回は、リコールによる修理・点検のための費用が影響して、当期純利益が大幅に減少したが、売上高は前年度より高く、苦しい中でも売上高を伸ばせていたところが良いところだと思う。

○魅力：売上高が上がっていて、資産の効率性が高いこと。

課題：長期の安全性が低くなった原因は、コロナの影響で長期借入金や社債が増えているため。

○どの比率が良い、悪いと何が影響しているのかを自分で考えて班で話し合うことが、とても楽しかった。（株）SUBARUは、同業他社比較の結果、各指標が6社の中で1位や上位に入っていたりしたので、すごいと思った。足りないものを補って、日本で1位の自動車企業になってほしい。

## 5 考察

生徒は問題を解くことはできるが、なぜその処理を行ったのかという解答の根拠を説明することが苦手であり、他者との対話によって理解した知識・技術をさらに深める機会が少ないと感じていた。そこで、本研究では、会計分野で知識構造型ジグソー法を取り入れた。生徒は、基礎的・基本的な知識・技術を活用して、グループ活動で根拠を示して論理的に考えを伝え合うことができた。さらに、異なる視点のグループ活動でそれぞれの生徒が理解を深めた知識を伝え合うことで、財務諸表についてより深く分析をすることができた。また、伝え合う中で、配布資料にない（株）SUBARUの経営情報についても生徒が興味・関心をもち、理解をさらに深めることができたのは、大きな成果である。このことから、会計分野でも知識構造型ジグソー法を取り入れた手立ては有効であるといえる。

本研究の「手立て1：①問題演習、②根拠を考え伝え合う」・「手立て2：①解説し合う」を行う活動は汎用性があり、普段の授業でも繰り返し取り入れることができる。基礎的・基本的な知識・技術の定着とともに、普段の授業からペアやグループ学習で解答の根拠を考える機会を繰り返し設けることで、生徒が自分の考えを伝え合う活動に主体的に取り組めるようになった。さらに、発展的な学習への取組にも変化が見られ、あきらめてしまうのではなく、つまづきや疑問を共有して、生徒同士で解答の根拠を考え解決しようとする姿が見られるようになった。この様子は、他教科の学習にも、見られるようになってきている。

ペアやグループ学習により、基礎的・基本的な知識・技術の確認や解答の根拠を考える活動を継続していくことで、生徒が主体的に課題を解決する取組につながっていくことが分かった。今後も継続してこの手立てを取り入れた授業づくりをしていきたい。また、他教科の先生方とも連携して、生徒同士が伝え合う活動を取り入れた授業展開を考えていきたい。